

もっと ニュース

地域まるごと産直交流会



青梅の収穫体験を楽しむ参加者

5月31日、「第5回地域まるごと産直交流会」が行われ、生協コープ鹿児島組合員200人が町内の梅園で青うめ収穫体験を楽しみました。昼食は町内で生産された豚や野菜を使った豚汁と狩宿米を使ったおにぎり、南高梅のうめぼしや町内産新茶がふるまわれ大変好評でした。また、生産者との意見交換会もあり、生産者と消費者の交流が図られました。

さつま町特産品祭り 大盛況



鹿児島市七ツ島で行われた特産品祭り

5月31日から6月1日にかけて、鹿児島市七ツ島で「さつま町特産品祭りin鹿児島ふるさと物産館」が開催されました。期間中、5団体が参加し、自慢の野菜や加工品、青梅、マンゴーなどを店頭に並べ、消費者へ商品の説明や本町のPRを行いました。また、商品の試食を通じて、直接、消費者の声を聞く良い機会となりました。



次々と青梅が運び込まれる集荷場

九州一の南高梅産地

「さつま南高梅」出発式

6月2日、さつま農協佐志野菜集出荷所で、町特産の南高梅の出発式が行われました。式では、さつま農協青つ

め部会会長の神園和昭さんのあいさつの後、関係者によるテープカットで出荷を祝いました。

今年の収量は、2月の冷害の影響で、前年並みの615トンが予想されていますが、実太り、品質は良いようです。

青梅は、6月中旬まで県内外のAコープや生協、イトーヨーカドー、イオンなどの量販店、全国の市場や焼酎会社に出荷されるほか町内各直売所でも販売されます。

完熟梅は7月上旬まで薩摩農産物加工センターで集荷され加工した後、県外業者や量販店で販売されます。



商店街に花プランターを飾る生徒たち

商店街に花プランター寄贈

薩摩中央高等学校

5月29日、薩摩中央高等学校の3年生31人が宮之城屋地と虎居の商店街に花プランターを寄贈しました。生徒たちは、贈呈式の後

商店街の方々と一緒にアーケードに花プランターを飾りました。

この花プランターは、一昨年の豪雨災害で被災された皆様に、身近に花があることで、心にゆとりと安らぎを与えることができると生徒が授業を通じて育てた花です。

宮之城屋地区の長濱良博公民館長は「町は復興の途中ですが、花を見ると心が安らぎます。心温まる花をありがとうございます」とお礼を述べました。

もっと ニュース

大園トミエさん 手作りほうきを寄贈



福満教育長にほうきを手渡す大園トミエさん

船木在住の大園トミエさんが、教育委員会と町内の小中学校に、庭ほうき160本を寄贈されました。頂いたほうきは、全て手作りで、大園さんは町内だけでなく、近隣の役場支所や学校でも役立ててもらいたいと、毎年ほうきを作り寄贈されています。

峯崎ムツミさん 健康器具を寄贈

宮之城屋地在住の峯崎ムツミさんが、宮之城総合体育館に、健康器具「ランニングマシン」を寄贈されました。このランニングマシンは、宮之城総合体育館のトレーニングルームに設置して、町民の皆様の健康づくりに役立てられます。



寄贈された健康器具「ランニングマシン」



奥薩摩のホタル舟運航



うなぎのつかみどりを楽しむ子どもたち

鮎の塩焼き大盛況

第2回川内川鮎まつり

6月1日、湯田地区の宮之城温泉河川広場で、川内川漁業協同組合主催の第2回川内川鮎まつりが開催されました。

鮎の解禁日に合わせ催された鮎まつりには、多くの方が訪れ、川内川に生息する魚と身近にふれ合いました。

なかでも、1匹50円で販売された鮎の塩焼きコーナーは人気が高く、用意された2,500匹が完売しました。ちくりん大鍋の無料配付コーナーも好評で、長い列を作りました。

また、川内川に生息するコイやフナなどが泳ぐ大型水槽展示「川の生き物水族館」では、多くの方が見入っていました。

このほか、五ツ太鼓の演奏や魚の放流体験、うなぎのつかみどりなどが行われ、大いに盛り上がりしました。



二渡ほたる舟運航

さつま 5月の風物詩

川内川でホタル舟運航

まちの風物詩となっているホタル舟が、今年も町内の2ヶ所で運航されました。神子地区では「奥薩摩のホタル舟運航」が5月21日

から6月6日まで運航し、二渡地区では「二渡ほたる舟」が5月17日から6月7日まで運航しました。

今年は、肌寒い日や雨の日が続く、運航日が限られましたが、乗船客は、ホタルの幻想的な灯りを楽しんでいました。時折舟に近づくとホタルを見て、「ホタルだあ」という子どもたちの賑やかな声も聞こえてきました。

また、毎年変わらぬスタッフのまごころあふれる対応に乗船客の笑顔も見られました。

災害前のようなホタルの数とはまだまだいきませんが、年々増えていく、ホタルの乱舞に期待したいものです。